課題：三重県は南北に長く課題も人口減少対策も地域差がある

< R 6 年度 ~ > 5つの地域毎に市町と連携した会議を開催

各市町の取組状況の共有及び地域の実情も踏まえた県と地域で連携して実施する取組等について意見交換

各地域の取組の方向性（出た意見）

【北勢地域】

- ・都市計画が弊害となり、家を建てる場所がない
- ・空き家住宅の利用などを広域で連携できないか

- テーマ毎に勉強会を実施
- 県庁の各部とも連携

【伊賀地域】

- ・（空き家）伊賀は趣のある古民家があり、名張はインフラの整った住宅団地がある
- ・名張には働く場の選択肢があまりないため、伊賀に頼る部分がある

- それぞれの強みを生かした地域一体でのPR及び連携

【中勢地域】

- ・東京での就職フェアにあわせて移住相談ができないか
- ・ええとこやんか三重に就職相談にきた方のメーリングリストの共有はできないか

- 仕事と暮らしのトータル支援
- 移住希望者等の効率的な情報共有

【南勢地域】

- ・大学進学者が増加、皇學館大学卒業後の転出者が多く、企業は人材確保に苦労
- ・ワーケーションや二地域居住促進には、伊勢志摩ブランドが強み

- 若者の減少に対する取組が必要ではないか

【東紀州地域】

- ・日本全体の人口が減る中で、地域の人口の維持は困難であり、関係人口づくりへのシフトも必要ではないか
- ・県、市町の役割分担の整理やデータ分析による、取組検討が必要ではないか（南部基金活用も可）

- 二地域居住の勉強会の実施